

編集： 山田浩司

住所： 東京都三鷹市井口1-13-46 鴨下方 電話： 0422-31-7510

E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp URL: <http://www.sanchai.net/>

お世話になりました。サンチャイ通信一端終了です。



とうとう私にも滞米生活最後の日がやってきました。10月15日に3年間にわたる世界銀行本部での勤務を終了、派遣元の JICA の規程通り、翌16日には飛行機に乗り、17日に成田空港に到着しました。

ワシントン滞在中は、同時多発テロや連続狙撃事件、記録的な大雪に記録的なハリケーン災害と、様々な事件や災害が身近で起きました。個人的にも、裁判所のお世話になったり、ぎっくり腰を患ったり、小さな波乱もありました。美澄もポイズン・アイビーにかぶれたり、自動車前輪を大破する事故を起こして裁判所に出頭するといった得難い経験もしましたが、滞在期間中盤以降は、「マッサージ・セラピー」という新境地を開拓し、今

後の日本での生活に展望が開けたように思います。

派遣元に対しては不謹慎な言い方かもしれませんが、樹生、千智ともに未だ小さかったこの時期に、プライベートの多くの時間を割き、子供の成長を見守ることができたことも、自分にとっては貴重な経験だったと思います。他の子供達が話す言葉が全く理解できないうちに託児センターに放り込まれ、最初は辛い思いをしたことでしょうか、今や親の英語を「発音が違う」と指摘するに至っています。今年の初夏には2人の誕生パーティーを相次いで開催しましたが、学校の友達が沢山集まってくれたのを見て、我が子もこのコミュニティに小さくとも確実な足跡を残すことができたのかなと感じました。

仕事の方では、特に3年目は「JICA 出身」としての自分の比較優位は薄れて、新たな担当業務への挑戦に終始しました。上司には冷たい言葉を浴びせられることも度々で、仕事上の余裕を失って徐々に JICA から足が遠のき、現地の JICA 事務所の方々の期待を裏切り、ご迷惑をおかけする結果になったかもしれません。この場を借りてお詫び申し上げます。信託基金というツールを通じて知り合った世銀加盟先進国政府の職員の殆どは外務・財務畑の方々で、今後途上国の援助の現場で再会する機会がそれほど多くあるとは思えないし、信託基金の知識自体が JICA で役立つ余地はそれほど大きくはありませんが、それでも今後の自分のキャリア形成の拠り所にはなったものと思います。

仕事上の苦境を救ってくれたのは家族であり、多くの知人・友人の皆様です。仕事の後で飲みに出かける日本人の習慣は世銀職員にはなかなか理解できないようでしたが、そうした場での日本人間のコミュニケーションで大いにカづけられることがありました。この場を借りてお礼申し上げます。

職場・家庭以外の場で自分の拠り所を作ることも大きな課題でした。美澄にとってはそれが「マッサージ・セラピー」でしたし、私にとっては「剣道」を通じた多くの仲間でした。志道学院オークトンクラブ、ロックビルクラブ、ノーザンバージニア武道会、ワシントン剣道クラブ、ジョージワシントン大学剣道部の方々にもお礼申し上げます。

そして最後に、アメリカで確固たる生活基盤を築けたのは、ひとえに隣人に恵まれたお陰だと思えます。家族ぐるみでお付き合いいただいたオショーネシー家、隣のビル&ナンシーご夫妻には、我が家が苦境に陥った際にはいつも助けていただきました。タッカホー小学校の父兄の皆様にもお礼申し上げます。



剣道修行3年間、その成果

ダイエットに有効だったかどうかはともかくとして、アメリカで剣道を再開して3年近く続けてきたことは、私生活の面で最も胸を張れる実績だと思う。では、それなりに進歩があったかという点、三段取得や試合での入賞ということもあったし、その他にも、9月後半から10月にかけて、「これは」という出来事が幾つかあり、私もそれなりに進歩したと確認することができた。

パパの体重

84 kg

(10月25日現在)

その1：栗原先生との再会

バージニア州マナサスには栗原先生という先生がいらっしゃる。普段はリッチモンドで指導されている先生だが、私がこちらで剣道を再開して三度目くらいのオークトンの練習にたまたま来られ、そこで指導を受けた。「あなたの剣道は（いかに速く、いかに多くの手数を繰り出すかがものを言う）学生剣道の癖が抜けていない。剣風は年齢とともに変えていかなければならない。あなたももう若くはないのだから、もう少しスタイルを変えることを考えなさい。」というアドバイスだった。この稽古の後、オークトンのヤン先生と栗原先生の剣道指導に関する意見が合わず、栗原先生はその後オークトンには来られないようになった。9月末にノーザンバージニア武道会に出稽古に出かけた際、その栗原先生に久しぶりにお目にかかった。先生がここの武道会に顔を出されたのも4年振りくらいだったらしい。久々に稽古をつけていただいた後、若干のご指導をいただいたが、その際3年前に指導された剣風を変える話はどこまで達成できたかと尋ねてみた。先生は覚えておられなかったが、それでも「今のスタイルは良くなっている」と認めていただいた。3年間工夫してきたことが報われたなと思える瞬間だった。

その2：幻のメン

10月に入り、久しぶりに志道学院ロックビルの練習にも顔を出してみた。相変わらず激しい練習で、オヤジ剣士には付いていくのがやっとこさだった。2時間の練習も最後にさしかかり、地稽古の最後になり、非常にきれいな剣道をされる矢吹さんと初めて稽古で当たった。体力を使い果たし、フラフラの状態だったが、終盤2人で申し合わせて1本勝負に入った。そして、最後に私が飛び込みメンで1本取った。届かないのではないかと遠くから無意識で放ったメンだったが、普段の踏み込みで出した右足がさらに伸びて届いてしまった感じで、普段の練習では全くやったことのない打ち方だった。どうやったのか説明することも難しい。もう一回やってみろと言われてもできない。

三段を取得した頃から、私は最初からコテを狙わず、メンから攻めるよう心がけてきた。得意なコテでポイントを稼ぎたい気持ちを敢えて抑え、どうメンを打つか試行錯誤を繰り返してきた。そして、矢

吹さん相手に放った飛び込みメンはこの3年間で最高の一撃だったと思う。

その3：ケノンにもらったメン

オークトンにケノンという大柄の剣士がいる。丁度私が3年前に剣道を再開した頃、初心者としてオークトンの練習に初めて来た。半年間防具を付けずに基本技の練習を積み、防具着用で稽古を始めてから2年になるが、そのケノンと地稽古をやると、相メンを繰り出すと長身のケノンに上から乗られる感じで打ち負け、時々1本取られるようになってきた。自分の未熟さの現れでもあるけれども、彼が上達してきた証拠でもある。長身なんだから、普通にメン技を磨けば簡単には負けない筈である。ケノンはせこくコテやドウを狙わずオーソドックスにメンをじっくり攻めるようになってきた。

私が剣道を再開した頃はケノンのように初心者だった成人剣士が3名いるが、今では他の初心者にアドバイスできるところまで成長してきた。機会があれば一緒に団体戦を戦えるところまで上達したように思う。彼らに対して私がしてきたことと云ったら、つたない英語でほんのちょっとしたアドバイスをしてくらいたったのだが、楽しく練習を続けてくることができた。

10月に入り、オークトン、ロックビル、ノーザン・バージニアの3ヶ所で私の送別特別稽古を企画していただいた。ヤン先生にはご自宅にお招きいただき、志道学院の有志の方々にも来ていただいて送別会を開いていただいた。自分の技の上達もさることながら、自分もこの地に何かを残せたのではないかと思う。ご指導いただいた先生方、一緒に稽古を積んだ仲間の存在を心の支えにして、日本に戻ってからも修行に励みたいと思う。帰国して1年稽古を続ければ、四段受験資格が生じる。受験者として恥ずかしくないだけの稽古を積みたい。そして、ワシントンの剣道仲間が東京で立ち寄れる「港」を開拓しておきたいと思う。

イザベルの傷跡

災害時にわかった我が家の立地の良さ

日本でも報道されていたのでご記憶の方は多いと思うが、9月18日から19日にかけてワシントン界隈を襲ったハリケーン「イザベル」は、ノースカロライナからメリーランドにかけて多くの傷跡を残してカナダに抜けて行った。死者23名も大変な数字である。ワシントンは18日午後から風が強まり、夕方から深夜にかけて家も吹っ飛ばされるかという暴風雨となった。我が家は家具も少なくなっているし、電灯の数も減っているし、家族もいないので正直言ってかなり心細かった。日本だったら雨戸を閉めて台風にも備えるところだが、アメリカには雨戸などというものはない。街路樹の枝が折れてガラス窓に飛んで来たらとんでもないことになっていたかもしれない。断続的な停電もあった。こんな時は眠るに限ると早々に就寝した。

翌朝は風も収まり、時々晴れ間も顔を覗かせた。連邦政府がこの日も休業したため、自動的に世銀も休業になったが、どうしてもこの週のうちにやっておきたいこともあったので、車でオフィスに出かけた。そこら中で枝が折れて道路に落ちているし、根こそぎ倒れた木も何本か見かけた。電線も何ヶ所かで切断されていて、電力会社の作業車が復旧作業にあたっていた。テレビではアーリントン南部のアレキサンドリアの市街地がポトマック川の増水で水に浸かっている光景を何度も報道し、ラジオではアーリントンの西隣のフェアファックス郡が停電で浄水場の操業が止まり、未処理の水が水道水に混入したとして15分間の煮沸を呼びかけ、冷蔵庫の中の食材で何は廃棄すべきか専門家の意見を流していた。

そんなにひどかったのかと思ったが、フェアファックスでは18日夕方から停電し、場所によっては19日の夜も復旧しなかったらしい。復旧に数日かかるところもあると報道されていた。我が家のすぐ近くのフォールズチャーチ市は19日夕方までほぼ全域が停電で、レストランはおろか、全ての小売店が閉店だった。それではアーリントン郡は全域が平気だったかというと、実は電力供給が無事だったのは我が家の一帯だけで、少し離れると真っ暗な地区がそこら中にあった。開店しているレストランには長蛇の列が出来、停電の地区では給油ができないため開店しているガソリンスタンドは早々に売り切れになっていた。

こうしてみると、我が家の界隈の立地の良さが際立っている。大きな倒木もなく、断続的な停電はあっても全く電気が来なくなるといったことはなかった。当然浸水もなし。唯一、ケーブルテレビが見られなくなるといった支障はあったが、これはどちらかというところの界隈の問題ではないと思う。

離任を前にして、家の損壊なんて洒落にならない。今年の冬は歴史的豪雪で、晩夏は歴史的なハリケーン災害と、ワシントン地域では大きな被害が出た。それに耐え切った我が家とこの界隈、振り返ってみればとても良い地区に住居を選んだと思う。我が家に感謝し、この地区の立地に感謝したい。隣人にも恵まれたと思う。

帰国前の駆け込み観光（４）

２ヶ月がかりで家財道具のスリム化に努めてきた結果、ワシントンでの最後の週末を前に目標の引越貨物の搬出を完了することができた。何も無い我が家でコロバス・デー（10月13日）を含めた連休を過ごすのも忍びないので、単身で迎えた最後の週末は、ルイジアナの知人に暫しのお別れの挨拶に行くことにし、ついでに18年振りに母校LSUのアメリカンフットボールの試合を大学のスタジアムで観戦した。（ここまで5戦全勝で全米ランキング6位まで上昇した母校だったが、この日は格下のフロリダ大学に大苦戦。久し振りの観戦だったが、負けてしまった。）



さようならサザンルイジアナ編

カウエンご夫妻訪問

ルイジアナ州クラウリー在住のカウエンご夫妻は今年86歳。何度うかがってもいつも暖かく迎えて下さる。LSUのOBでもあるご夫妻とは、フットボールの試合の後大学のユニオンビルで待ち合わせ、その後クラウリーのご自宅で泊めていただいた。翌日は日曜日で、敬虔なメソジストのご夫妻に付いて市内の教会の聖書勉強会と日曜礼拝に出かけた。この教会に入るのは結婚したばかりの1995年夏に美澄と2人で訪れた時以来だが、中には私のことを覚えておられる方もあった。日曜の教会での集まりは特にお年寄りの方にとってはコミュニティの情報交換の場であり、若い世代との交流の場でもある。日本と比べてアメリカのコミュニティ意識は低いと従来から言われてきたが、必ずしもそうではないように思う。教会の繋がりや、日曜礼拝の後で市内に2、3しかないレストランに出かけて取る昼食は、コミュニティの住民同士の立ち話の場でもある。教会主催の秋祭りに、市主宰のコメ祭りと、コミュニティの住民が老若男女を問わず参加する。日本では稼ぎ手の親の勤務時間が長過ぎて自分の住むコミュニティの中で何が起きているのか、自分がどうそれに関わって行けるのか、関心を持つことが非常に難しい。人口の流動が比較的少ないルイジアナの地方都市を見るにつけ、日本で我々の世代ができることは本当はないのか、ちょっと考えさせられた。

カウエンご夫妻のお歳を考えると、ひょっとしたらこれが最後の対面かもしれない。お二人とも非常にお元気であるが、これで私が帰国したら、今までのような年1回ペースで会いに行くようなことはとてもできないだろう。かといって「東京にも遊びに来て下さい」とも言いづらい。お二人の見送りを受けてクラウリーを後にする時は、とても寂しい気持ちがした。



ミラーファミリー再訪

今年2月にお亡くなりになったデージー・ミラー夫人のお墓にも暫しのお別れの挨拶に立ち寄った。ご主人のパーシー氏と同じ場所に埋葬され、ご夫婦で1つの墓標を共有されていた。LSU 留学後、パーシー氏と会ったのは1989年3月が最後だが、デージー夫人には私の家族全員を紹介でき、お亡くなりになる2ヶ月前にも家族全員で夫人を訪ね、夕食をご一緒させていただくことができた。私達がアメリカ滞在中にお亡くなりになったのは非常に残念だったけれど、告別式に呼んでいただき、家族の一員として列席させていただくことができた。



残されたご家族の方からは、「バトンルージュに来る機会があったら泊まって行け」と言われていた。今回の訪問では、普段私がEメールで連絡を取り合っていた三女のキャミーは出張中で会えなかったけれど、出発の2週間前に二女のテレサからメールをもらい、12日(日)夜は長女のダイアンの自宅で私の送別会を行ないたいとお招きいただいた。ダイアンのご主人も、この7月にお亡くなりになっている。ミラーファミリーは完全代替わりである。私が国際ロータリーの奨学生だった当時高校生だったダイアンの子供達には既に樹生達と同世代の子供がいるし、テレサの子供2人は私のことを知らない。ミラーファミリーと過ごした期間はごく僅かであったけれども、客人を家族の一員として遇して下さるところはさすがに南部だと思う。

次に訪れるのは樹生達?

途上国の開発援助という仕事に携わりながら、今回たまたまワシントンに職を得て3年間を過ごすことができたことは、非常に幸運であったと思う。「次にまたアメリカで働くことはあるのか」と多くの方に聞かれたが、この仕事に携わっていればアメリカで働くこと自体が珍しいことである。次にアメリカで生活するとしたら、それは代も替わって樹生や千智が留学や就職で行くことになるのかもしれない。

インターネットに感謝!

90年代半ばにいったん途絶えたミラーファミリーとの連絡が再開できたのは、私がネパール滞在中の1996年末にたまたまクリスマスカードに添えてミラー御夫妻(その頃は既にご主人はお亡くなりになっていたが)に送った「サンチャイ通信」の英語版のお陰であるようだ。それを我が子からの便りと同様に大切にしておいたデージー夫人が、何かの機会に娘達にその「サンチャイ通信」を披露し、三女のキャミーがその中に私のEメールアドレスが書かれていることに気付いたことが、その後のキャミーとのメール文通に繋がっている。きっかけは「サンチャイ通信」だったが、ここまで連絡を取り続けることができたのはインターネットのお陰である。デージー夫人の告別式も、ダイアンのご主人のバーン氏の告別式も、バトンルージュの地元紙の訃報欄をネット検索して詳細確認することができた。

今後も連絡を欠かさないようにしたいものである。

これで行き残したところはない?

今回、紙面の関係で紹介できなかったけれど、離任前の駆け込み旅行として、10月初旬のサザンレイジアナの他、9月中にニューヨーク州クーパースタウンを訪ねて、「プロ野球殿堂」と私がアメリカの地ビールで最も美味しいと思った「オメガング」の醸造所を見学した他、テキサス州サンアントニオを訪ね、3年前の私の赴任時にJICAワシントン事務所に勤務されていて、その後退職してテキサスで東洋医学の勉強を始められた上野さんご夫妻にお目にかかってきた。これでポール&マーゴの住むアイオワ州チャールズシティに行けたら大満足といったところだが、彼等には息子デビッドの出場するバスケットボールの試合観戦のためにワイオミングで一度会っているので、これで十分かもしれない。

編集後記

- 家族の早期帰国後、約 2 ヶ月かけてなんとかアーリントンの我が家の中が空になりました。賃貸契約が出発直前まで残っていたのでぎりぎりまで住みましたが、お陰で公共料金の精算請求が私の出発後に生じ、後に残る方々にいろいろと宿題を渡して飛行機に乗ることになってしまいました。自分の計画ミスなのですが、仮に 1 週間退去日を早めても一部の請求書は離任後に届くことには変わりありませんでした。公共料金支払いは全て個人小切手の郵送で済ませてきたのですが、ひよっとしたら銀行自動引き落としにしておけばよかったかもしれません。世銀本館内に店舗を構える信用組合の口座は暫く残しておくことにしました。いつになるかわかりませんが、この口座の閉鎖のためにまたワシントンを訪れたいと思っています。
- 隣りのオショーネシー家のトーマスから、時々「ミキオはいつ来るの？」と何度か聞かれて返事に困りました。「来年の夏かな」と答えるのが精一杯でした。8 月に先に帰国させる時、トーマスとマリーはお母さんのニーナとデンマークに滞在していて、帰国するという挨拶をきちんとすることができなかったのが返す返すも残念です。11 月には第 3 子が生まれる予定もありますし、来年の再渡米はちょっと難しいかも。いつになるのかわかりませんが、子供達をアメリカの友達と再会させるためにもまたワシントンを訪れたいと思っています。
- 私の次の勤務先は市ヶ谷の国際協力総合研修所調査研究 1 課に決まりました。課長代理兼副主任研究員です。未だ日本福祉大学通信制大学院の修士論文が終わっていない状態で JICA の調査研究部門をリードするのはちょっとおこがましい——と少し弱気になっています。ましてや前任者は JICA 中に名の知れた優秀な方。いったいどうなるのでしょうか。

山田ファミリーの当面の国内連絡先は次の通りです。

181-0011 東京都三鷹市井口 1-13-46 鴨下喜代澄様方

電話&FAX : 0422-31-7510

E-mail : mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

11 月末には新居に移る予定ですが、美澄ママの実家から 3 軒隣りですので、当分の間上記連絡先をご利用いただいて構いません。